

第 1 4 期 報 告 書

2022年4月 1日から
2023年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

2022年度事業報告書

当会が一般財団法人として発足し14年が経過した。

ようやく感染症の脅威が治まり、それまで延期されていた事業が一斉に動き出した一年となった。

国内においては、学校部活動の地域委託の動きに合わせ、全日本選手権にU15（中学生）の部を新設した。また、夏の大会では人気漫画のアニメーションとのコラボレーションを行うなど、制限解除に呼応するように新たな取り組みを進めた。

海外においても、2020年度から延期が続いていた世界大会がカイロで開かれ、参加全カテゴリーで3位以上入賞の成果を上げた。

財政面では、リモート環境の活用による経費の削減は継続したものの、急速な経済活動回復に伴う価格高騰の影響を受けた。国内事業では旅費宿泊費の高騰、海外事業では燃油料の高騰と円安による影響が重なり、避ける術がなかった。

また、活動回復に合わせて、これまで以上にガバナンス体制の整備・コンプライアンス意識の向上が急務となっていることから、2023年度には担当委員会の充実と共に、各分野での計画に盛り込むこととした。

1. 全国競技会

3年ぶりに、全ての全国大会を年度当初の計画どおりに開催した。

①小学生：全日本ドッジボール選手権（夏）／小学生～社会人：女子総合選手権

4つの全国大会の内、2大会は水戸市アダストリアみとアリーナにて開催した。

特に夏はSPY×FAMILYとのコラボレーション大会となった。経験の浅い分野のため、取り組みに対する課題も残したものの、選手以外にも楽しめる場を提供することができた。

女子総合選手権は、久々に32+16チームの48チーム全てが揃う全国大会となった。地元茨城県を始めとした関東ブロック連絡会の支えにより、感染症に振り回された2年余りにおいても全く途切れることなく開催できた数少ない事業となった。

概要		
	SPY×FAMILY Presents 第31回全日本ドッジボール選手権全国大会	第9回全日本女子総合選手権
日時	2022年8月21日(日)	2022年12月11日(日)
会場	アダストリアみとアリーナ 〒310-0034 茨城県水戸市緑町2丁目3-10	
助成団体	水戸市	水戸市、(公財)スポーツ安全協会
協賛	(公社)糖業協会、(株)トンボ	
特別協力	ミズノ(株)	
協力	(株)ミカサ、(株)モルテン、 (株)共同写真企画、(株)プロフォートサニー、 近畿日本ツーリスト(株)、(株)フィス、 (株)アンフィニプロジェクト、ヤマダイ(株)、 イトウ製菓(株)、J A 水戸、(株)東横イン、 (株)桃の館	ミズノ(株)、(株)モルテン、(株)ミカサ、 (株)共同写真企画、(株)プロフォートサニー、 (株)フィス、近畿日本ツーリスト(株)、 (株)アンフィニプロジェクト、(株)正栄デリシィ、 ヤマダイ(株)、J A 水戸、(有)煎餅屋仙七、 (株)東横イン、茨城トンボ(株)、(株)桃の館
参加チーム・人数	青森・秋田・山形の各県を除く44都道府県 予選代表小学生男女46チーム(D1) 選手・指導者 935名 審判員・スタッフ 250名	D-1G(女子小学生)の部 32チーム S-1G(中学生～社会人女子)の部 16チーム 選手・指導者 847名 審判員・スタッフ等 230名
成績	D-1 優勝 やまひがファイターズ(大阪府) 準優勝 中新田ファイヤーズ(神奈川県) 第三位 ベストトゥエルヴ(兵庫県) RISINGSUN(福岡県)	シニア女子の部(S-1G) 優勝 Mito GS Girls(関東ブロック/茨城県) 準優勝 HOLICK(四国ブロック/愛知県) 第三位 阿波club蓮(四国ブロック/徳島県) くノ一(九州ブロック/福岡県) D-1Gの部 優勝 Fillies(静岡県) 準優勝 Kanagawa jewels(神奈川県) 第三位 empress(茨城県) ツイスト(愛知県)



②中学生～社会人：J. D. B. A. 全日本選手権

北九州市での開催は、当初2020年度を予定していたが、感染症の影響による延期が続き、ようやく実現した。

また、当時の小学6年生は最後の全国大会を目指す機会を失っていたことや、学校部活動の地域委託化に合わせ、今年度から中学生単独の部門（U15の部）を設置した。開催期日の関係上、中学生の遠方からの参加は難しかったものの、西日本を中心に大幅に競技者が拡大したことから、潜在的な需要が強いことは明らかとなったことから、2023年度以降も継続することとした。

概要											
	2022J. D. B. A. 全日本選手権										
日時	2022年10月2日(日) 9:00～17:00 (10月1日 設営/ドッジボール教室/指導者更新講習会(兼JSP0義務研修))										
会場	北九州市立総合体育館 〒805-0011 福岡県北九州市八幡東区八王寺町4-1 TEL 093-652-4001										
共催	北九州市										
協賛	(公財)北九州観光コンベンション協会										
協力	ミズノ(株)、(株)モルテン、(株)ミカサ、(株)共同写真企画、(株)プロフォートサニー、(株)フィス、(株)アンフィニプロジェクト、(株)東横イン、西鉄旅行(株)、NEJI CHOCO LABORATORY										
参加チーム人数	S-1 東北から九州までの8ブロック代表32チーム(中学生～社会人男女) U15 東海から九州までの5ブロック代表16チーム(中学生男女のみ) 選手・指導者 711名 審判員・スタッフ 120名										
成績	<table border="0"> <tr> <td>ファイターの部(S-1)</td> <td>U15の部(S-1)</td> </tr> <tr> <td>優勝 くらわんか(関西ブロック代表)</td> <td>優勝 DRAGON BALL®(東海ブロック代表)</td> </tr> <tr> <td>準優勝 RED☆MAX(関東ブロック代表)</td> <td>準優勝 愉快的仲間たち(中国ブロック代表)</td> </tr> <tr> <td>第三位 原田WINGS-MAX(九州ブロック代表)</td> <td>第三位 KGLEJEND(四国ブロック代表)</td> </tr> <tr> <td>O. T. D. C(九州ブロック代表)</td> <td>Feujon Jr.(東海ブロック代表)</td> </tr> </table>	ファイターの部(S-1)	U15の部(S-1)	優勝 くらわんか(関西ブロック代表)	優勝 DRAGON BALL®(東海ブロック代表)	準優勝 RED☆MAX(関東ブロック代表)	準優勝 愉快的仲間たち(中国ブロック代表)	第三位 原田WINGS-MAX(九州ブロック代表)	第三位 KGLEJEND(四国ブロック代表)	O. T. D. C(九州ブロック代表)	Feujon Jr.(東海ブロック代表)
ファイターの部(S-1)	U15の部(S-1)										
優勝 くらわんか(関西ブロック代表)	優勝 DRAGON BALL®(東海ブロック代表)										
準優勝 RED☆MAX(関東ブロック代表)	準優勝 愉快的仲間たち(中国ブロック代表)										
第三位 原田WINGS-MAX(九州ブロック代表)	第三位 KGLEJEND(四国ブロック代表)										
O. T. D. C(九州ブロック代表)	Feujon Jr.(東海ブロック代表)										

本大会の前日には、設営の後に地元小学生へのドッジボール教室、および指導者対象の研修会を行うなど、久々の九州開催の機会を活用した事業も実施した。

大会運営においては、福岡県協会を始めとした九州ブロックの協力を得た他、予選リーグ終了後には北九州消防音楽隊+カラーガード隊による演奏披露など、観光コンベンションとの連携も意識し、競技以外でも実現可能な要素を盛り込んだ。



③小学生：全国小学生ドッジボール選手権（春）

春の全国大会は、石川県協会及び北信越ブロックの運営協力を得て、2年ぶりに金沢市にて開催した。前回は厳格な人数制限と行動制限の中だったため、国内有数の観光地でありながらも、参加チームへその魅力を紹介できない環境であった。

今回は各種制限もほぼ撤廃されたことから、試合結果集計中を利用し、金沢文化スポーツコミッションの支援の下、子どもたちの目の前を鷹が滑空する鷹匠実演イベントの実施のほか、水引のトロフィーや金箔・銀箔・銅箔ボールによる表彰など、地元金沢の文化を数多く取り入れた形での開催となった。

地元の出店ブースも午前中に完売するなど盛況となり、翌年に同会場での開催を予定している女子総合ドッジボール選手権に向けて弾みのつく大会となった。

概要	
	第32回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会
日時	2023年3月26日(日) (3月25日設営)
会場	いしかわ総合スポーツセンター 〒920-0355 石川県金沢市稚日野町北222番地 TEL. 076-268-2222
特別協力	ミズノ(株)
協力	金沢文化スポーツコミッション、(株)ミカサ、(株)モルテン、(株)共同写真企画、(株)プロフォートサニー、近畿日本ツーリスト(株)、(株)フィス、(株)アンフィニプロジェクト、(株)東横イン
参加チーム人数	青森県・秋田県を除く45都道府県47チーム(D-1) 選手/小学生3~6年男女 841名 指導者 134名 審判/スタッフ 200名
成績	優勝 やまひがファイターズ(大阪府) 準優勝 やんちゃDBC(沖縄県) 第三位 レイクイーストファイヤーズ(滋賀県) 第三位 塚ロブルーファイターズ(兵庫県)



スポーツ振興基金助成事業
独立行政法人日本スポーツ振興センター



2. 競技委員会

主催大会では競技運営を円滑に行うと共に、ルールの徹底、審判員の資質向上のため諸施策を実行した。常任委員会では審判員育成課題等、競技全般に関する情報交換、研究、検討を行い、全国大会時における審判クリニックでは各地域から派遣される審判員を通じ全国への周知を図った。

なお、年度後半には感染症対策は緩和に向かったが、今年度中の主催事業においては、引き続き専用マスクの着用を必須とした。

- B級公認審判員認定講習会（ブロック主催）

開催ブロック	開催日	開催場所	受験者	合格者
東北	2022/6/5 11/20	岩沼市立岩沼西小学校（宮城県）	1	1
		多田野小学校（福島県）	2	
関東	2022/11/13	川崎市立東門前小学校（神奈川県）	11	5
北信越	2022/12/18	東御市中央公園第1体育館（長野県）	10	4
東海	2022/11/20	弥富市立日の出小学校（愛知県）	11	6
関西	2022/11/13	柴島中学校（大阪府）	4	0
中国	2022/9/18	広島県廿日市市立平良小学校（広島県）	11	4
四国	2022/11/20	徳島市立体育館（徳島県）	10	7
九州	2022/10/22 12/4	中城村民体育館（沖縄県）	10	4
		久留米市東部地区体育館（福岡県）	2	
計			72名	31名

九州ブロックは2回開催し、うち1回は初の沖縄県での開催となった。合格率は若干低かったものの、地理的な不利の解消に向けた取り組みであり、今後の推移を見守る。

A級～C級までを含めた全国の審判員資格取得者数に関しては、コロナ禍の2020年度時点では3600名まで減少していたが、2022年度は4000名以上まで回復した。



3. 普及委員会

- 全国大会機会の活用

カラーコートを設置する機会（シニア全日本は除く）の普及活用を意識し、全国大会前日に独自のイベントを実施した。10月・12月・3月は主に小学校低学年の児童対象とした教室形式、8月は東北～関東の繋がりを意識した宮城・福島・茨城・千葉のジュニアチームによるミニ大会を行った。

参加者からは好評を得た一方で、大会準備と並行する際の役割調整や、新規参加者を集めるための手法等には課題も残った。

これを解決するためには、まず開催地の協会またはブロックが普及計画を考え、その一環として全国大会機会の活用方法を検討するという組み立てを守ることが大切と思われる。2023年度はこの点をより意識し、イベントの有無も含めて内容を決定することとした。



● DA（ドッジアドバイザー）養成事業

次世代の育成を視野に入れ、シニア競技者の中から、普及意欲の高い人物をDA（ドッジアドバイザー）として認定する制度を開始した。

初年度は認定対象は普及委員を通じての推薦に限定し、全国で15名を認定した。

2023年度はDA間の情報共有を積極的に進め、企画段階から取り組めるようレベルアップを図ることとした。



● 各種ドッジボール教室・DA活用事業

加盟協会内の教室事業・全国大会機会の活用に加え、外部団体からの依頼に対してもDAを中心に積極的に受け入れた。今後の制度設計を検討する意図も兼ねて、対象を児童に限らずに、学校関係者や親子等の幅広い分野への対応を図った。

主な教室（外部団体からの依頼事業から抜粋）

依頼団体・事業名	日程・会場	特徴
伊勢市教育委員会 伊勢市小体部研修会	1月20日 城田小学校（三重県伊勢市）	市内22の小学校から参加した教職員25名を対象に実施 類似の例がないため、研修内容がどのように役立ったかについて、引き続き検証を予定している。
下館青年会議所 僕らのドッジボール アカデミア	3月12日 関城体育館（茨城県筑西市）	筑西市・桜川市の小学生 75名 賞品協賛：（株）ヤマダイ、（株）坂東太郎
祖師谷児童館 ドッジボール教室	10月22日 区立祖師谷小学校 体育館（東京都世田谷区）	コロナ前から断続的に実施 児童館の小学生20名対象。教室後、12月及び3月の児童館対抗大会にて初優勝（大会は児童館独自ルール）
コナミスポーツ ドッジボール教室	9月23日／11月20日 サイクルショップコダマ大洲アリーナ	コロナ前から継続実施。 2022年度は開催回数増加の要望を受け、年2回開催 9月48名、11月は午前：親子26組、午後：24名の参加

- 情報交換会

定例の委員会会議の他に、リモートの利便性を活用し、広くドッジボールを捉えることから普及のきっかけを見いだせるよう、普及部長を対象とした任意参加の情報交換会を3回実施した。

企画力が不足していることは全国的な悩みであることを認識した上で、固定観念から離れ、複合的な視点からドッジボールの役割・効果を考える機会とするよう、2023年度も継続する。

4. 指導委員会

J S P Oの指導者資格制度に沿って、2024年度までに全ての競技チームへA級指導員（JSP0ドッジボールコーチ1資格）を配置できるよう、段階的な制度設計を進めるとともに、各種講習会の資料の整備を継続している。

2022年度-2023年度の競技会においては、当初の予定に沿って、全競技カテゴリーの予選と全国大会にて、これまでの要件に加え、1名以上のB級指導員のベンチ入りを必須とした。（開催初年度となったU15(中学生)の部を除く。）

なお、A級指導員の人数は338名に達し、順調に増加している。

- B級公認指導員養成講習会※ブロック主催

資格取得者の拡大に伴い、2021年度以降は各ブロックの主催で進めている。一部には駆け込みの取得も目立ったものの、資格取得者は400名以上増加し、1500名に達した。

複数名の取得者がいるチームも多いことから、2023年度の伸びは一旦落ち着くと考えられる。

- 更新講習会

（10/1オンライン形式と対面形式のハイブリッド、2月オンデマンド配信）

継続的な学習の機会として、B級・C級指導員へは、4年に1回以上の更新講習会の受講を必須としている。

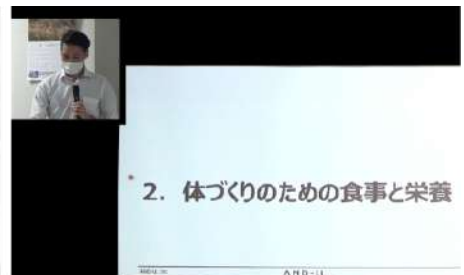
2022年度は北九州での全日本選手権の前日に実施し、対面+オンライン計31名の受講があった。

また、地元での開催・受講が難しいとの声も受けたため、内容を一部変更した上で、2月にオンデマンドの配信方式により実施し、57名が受講した。

- 大会中のケガの防止への取り組み

大会運営上、試合前の待機チームは指定の位置に整列した状態で待つよう求めているが、一方で、動かないことにより体が冷えるリスクは残り、その対応を求める声も寄せられていた。そこで、岐阜県を中心に活動している2nd condition（理学療法士）へ、その場で実行できるストレッチ映像作成を依頼し、全国大会での活用を図った。

また、同グループを通じて、全国大会参加チームへのケガ・痛みの有無に関するアンケートを実施しており、2023年度の各種活動への反映を予定している。



5. 国際委員会

- DODGEBALL WORLD CUP 2022 Cairo 代表選手団派遣

初参加の権利を得た状態で延期が続いていたカイロでの世界大会へ日本選手団を派遣した。

年度当初は代表合宿は困難とも考えていたが、JAぎふの協力の下、JAぎふアグリパーク（岐阜県岐阜市）での11月12～13日の最終合宿を経て、12月13日深夜にカイロに向けて出発した。

概要		
DODGEBALL WORLD CUP 2022 Cairo		
日時	2022年12月14日～17日	 スポーツ振興基金助成事業 <small>独立行政法人日本スポーツ振興センター</small>
会場	HALL2 Cairo stadium (エジプト/カイロ)	
選手団	選手26名 役員・スタッフ6名 審判員 3名	
参加国・地域	日本・イングランド・エジプト・アメリカ・ サウジアラビア・南アフリカ・香港・マレーシア	
成績	Womenカテゴリー 準優勝	Men及びMixカテゴリー 第3位

大会においては、参加全カテゴリーにて3位以内入賞、また審判員も決勝戦で主審を務めるなど、目覚ましい活躍を果たしたことにより、種目の違いは乗り越えられることを証明した。

その一方で、感染症により交流が途絶えた3年弱の間に、各国の活動状況や国際団体間の関係にも大きな変化が生じていることも明らかとなったことから、2023年度以降の戦略の練り直しが必要となった。



● マルチボール体験会・審判員講習会

開催日	会場	参加人数
5月21日～22日※	岐阜メモリアルセンター ふれ愛ドーム ※21日午前はDA認定会（普及委員会）実施。	競技体験者75名 審判員講習会18名

延期後の世界大会の詳細がなかなか公表されない中、候補選手の意識を保ちつつ、国内へのマルチボール種目の認知度の向上に向け、体験会と審判員講習会を開催した。

選手・審判員ともに、適応力は高いことを改めて認識した。また、独自に活動していた選手や、将来を見据えた新たな中高生の発掘の機会となったことから、今後も定期的な開催を進めることとした。

6. 倫理委員会

普段のチーム活動にも回復が見込まれたことから、6～7月にかけて、登録チーム保護者を対象とした無記名アンケートを実施した結果、500件ほどの回答を得ると同時に、特に年度後半にかけて、通報相談件数に明らかな増加傾向がみられた。

通報相談の中には、従来の規程では想定していなかった事例も発生したことや、加盟協会での整備が進んでいない状況も確認されたことから、2023年度はより実態を踏まえた規程の整備と、加盟協会へのコンプライアンス研修を進めることとした。

7. 会議の開催状況

2021年度に続き、評議員会はいずれもオンライン上で開催し、理事会においてもオンライン出席も多かった。感染症対策としての消極的な背景もあったが、臨時の打ち合わせ等、限られた時間を有効活用するための方法として積極的に取り入れた。

①評議員会

会議名	開催日	主な審議事項
定時評議員会	2022/6/24	2021年度事業報告・収支決算の承認・新会長就任
臨時評議員会	2023/2/20	2023年度事業計画・収支予算の承認

②理事会

	日程	主な議題
第1回	2022/4/23	スポーツドクター推薦、全国大会名称変更、マルチボールイベントガバナンスコード
第2回	2022/6/11	2021年度事業報告・収支報告承認、ガバナンスコード シニアチャンピオンシップ ※コンプライアンス研修実施
第3回	2022/8/27	新理事紹介 カイロ大会派遣メンバー承認、水戸全国大会総括 不服申立内容協議 ※コンプライアンス研修実施
第4回	2022/10/15	ガバナンスコード・ヒアリング結果説明 全日本選手権総括・更新講習会報告、女子総合選手権準備 新規スポンサー訪問内容報告
第5回	2022/12/3	カイロ現地状況及び行程の最終確認 女子総合選手権及び同時開催イベント（普及・指導）確認 2023年度全国大会事業確認
第6回	2023/2/4	2023年度全体事業／予算計画承認 カイロ世界大会遠征報告、DA事業経過報告、共通科目受講形式変更 仲裁申立対応、普及構想

7. 他（委員会単位ではない事業／他団体への派遣事業等）

❖ 中央スポーツ団体ガバナンスコード審査

スポーツ庁を中心に策定されているガバナンスコードに関して適合性審査年度を迎え、9月以降、JSP0・JOC・JPSAから構成される審査委員会調査チームからのヒアリング、及び補足資料提出を重ねた。手続きは12月まで及び、ようやく審査終了となった。

なお、全ての原則を達成したのではなく、今後の計画を設定した段階の項目も残っているため、引き続き整備強化を進めることとした。

❖ 広報紙作成・発行（総務・広報）

加盟協会内外に向けた広報紙を製作し、会員・スポンサー等へ発送した。また、今回は、初の世界大会参加の様態と、成果を報告する号外も発行した。



❖ スミセイアフタースクールプロジェクト

（主催 住友生命相互保険相互会社・NP0法人放課後アフタースクール）

2020～2021年度は中止またはオンラインでの実施であったが、ようやく対面での実施に戻った。

2022年8月22日	江府町放課後子ども教室（鳥取県日野郡）	48名
2022年9月22日	ひだまりキッズクラブ本木（岩手県滝沢市）	38名
2022年10月22日	京都市向島南児童館（京都府京都市）	44名
2023年2月5日	放課後母衣っこ教室（島根県松江市）	31名

第 1 4 期

計 算 書 類

2022年4月 1日から
2023年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

貸借対照表

2023年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	58,069,867	58,282,057	△ 212,190
商品	978,097	2,723,312	△ 1,745,215
前渡金	31,630	562,448	△ 530,818
未収入金	8,712,905	5,740,683	2,972,222
流動資産合計	67,792,499	67,308,500	483,999
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
工具器具備品	1	1	0
ソフトウェア	82,500	172,500	△ 90,000
保証金	414,000	414,000	0
その他固定資産合計	496,501	586,501	△ 90,000
固定資産合計	496,501	586,501	△ 90,000
資産合計	68,289,000	67,895,001	393,999
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,853,618	5,054,504	△ 1,200,886
前受金	1,479,000	963,000	516,000
預り金	70,630	980,010	△ 909,380
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税	506,300	580,600	△ 74,300
流動負債合計	5,979,548	7,648,114	△ 1,668,566
負債合計	5,979,548	7,648,114	△ 1,668,566
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	62,309,452	60,246,887	2,062,565
正味財産合計	62,309,452	60,246,887	2,062,565
負債及び正味財産合計	68,289,000	67,895,001	393,999

損益計算書（正味財産増減計算書）

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益			
事業収益	15,253,202	8,594,822	6,658,380
登録料収益			
チーム登録料収益	3,708,000	3,726,000	△ 18,000
受取会費			
協会員受取会費	38,611,500	35,328,000	3,283,500
役員等受取会費	610,000	620,000	△ 10,000
加盟協会料収益			
加盟協会料収益	2,350,000	2,350,000	0
スポンサー料収益			
スポンサー料収益	5,455,000	4,285,000	1,170,000
販売収益			
販売収益	11,413,279	13,607,421	△ 2,194,142
検定料収益			
公認球検定料収益	2,000,922	1,768,800	232,122
手数料収益			
手数料収益	1,497,226	1,156,309	340,917
受取補助金等			
受取助成金	8,582,137	5,403,000	3,179,137
雑収益			
雑収益	245,981	194,579	51,402
経常収益計	89,727,247	77,033,931	12,693,316
(2) 経常費用			
事業費			
謝金	629,263	350,000	279,263
旅費交通費	16,177,800	4,178,650	11,999,150
宿泊費	5,739,123	3,072,183	2,666,940
事業支援費	19,938,000	19,335,200	602,800
賃借リース料	1,397,223	683,450	713,773
制作費	4,643,331	4,937,510	△ 294,179
用具費	3,944,023	1,111,365	2,832,658
通信運搬費	1,935,386	1,702,090	233,296
印刷製本費	2,732,084	4,054,761	△ 1,322,677
事業消耗品費	6,816,969	7,345,509	△ 528,540
事業雑費	1,467,349	590,111	877,238
管理費			
給与手当	9,032,304	7,716,933	1,315,371
通勤費	374,480	379,740	△ 5,260
法定福利費	1,466,975	1,164,113	302,862
福利厚生費	31,500	65,920	△ 34,420
賃借料	3,753,872	3,722,242	31,630
リース料	250,800	250,800	0
旅費交通費	933,723	753,744	179,979
通信費	753,716	760,518	△ 6,802
運賃	1,052,970	1,036,473	16,497
消耗品費	283,651	236,085	47,566
顧問料	720,000	720,000	0
業務委託費	454,300	424,600	29,700
会議費	65,133	81,289	△ 16,156
接待交際費	39,724	229,400	△ 189,676
水道光熱費	376,100	234,300	141,800
諸会費	656,510	523,054	133,456
租税公課	1,021,200	1,018,650	2,550
支払助成金	280,000	489,659	△ 209,659
減価償却費	90,000	90,000	0
雑費	537,173	355,947	181,226
経常費用計	87,594,682	67,614,296	19,980,386
当期経常増減額	2,132,565	9,419,635	△ 7,287,070
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	2,132,565	9,419,635	△ 7,287,070
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	2,062,565	9,349,635	△ 7,287,070
一般正味財産期首残高	60,246,887	50,897,252	9,349,635
一般正味財産期末残高	62,309,452	60,246,887	2,062,565
II 正味財産期末残高	62,309,452	60,246,887	2,062,565

財務諸表に対する注記(附属明細書)

1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
商品……最終仕入原価法による原価法
- (2) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産……建物・建物附属設備・構築物は定額法、それ以外は定率法
無形固定資産……定額法
- (3) リース取引の処理方法
所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっている。
- (4) 消費税等の会計処理
税込方式で計上している。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	10,011,600	10,011,599	1
ソフトウェア	450,000	367,500	82,500
合 計	10,461,600	10,379,099	82,501

3. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	BS上の 記載区分
補助金・助成金						
岐阜観光コンベンション助成金	岐阜観光協会	0	100,000	100,000	0	—
2022年度ジュニア育成助成金	ミズノ財団	0	500,000	500,000	0	—
スポーツ普及奨励助成金	スポ安	0	400,000	400,000	0	—
加盟団体助成金	日レク	0	100,000	100,000	0	—
全国大会助成金	MDBA	0	1,400,000	1,400,000	0	—
北九州観光コンベンション助成金	北九州観光協会	0	878,137	878,137	0	—
スポーツ振興基金助成金	JSC	0	4,704,000	4,704,000	0	—
金沢文化スポーツ事業助成金	金沢文化スポーツコミッション	0	500,000	500,000	0	—
合 計		0	8,582,137	8,582,137	0	

財産目録

2023年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金手許有高		409,644	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店	3,747,650	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(賛助会員)	2	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(振興くじ)	100,471	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(JKA)	29,202	
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(ｽﾎﾟｰｽ振興)	1,509,243	
郵便振替	東京貯金事務センター(審判)	51,985,993	
郵便振替	東京貯金事務センター(積立金)	10,729	
郵便振替	東京貯金事務センター(ｽﾎﾟｰｽ振替)	68,390	
郵便振替	東京貯金事務センター(祝賀会)	68,063	
郵便振替	東京貯金事務センター	140,480	
商品	賞状、テキスト他	978,097	
前渡金	事務局更新料	31,630	
未収入金	ｽﾎﾟｰｽ振興助成金他	8,712,905	
流動資産合計			67,792,499
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
工具器具備品	大会用コート	1	
ソフトウェア	システム開発費	82,500	
保証金	事務局	414,000	
その他固定資産合計		496,501	
固定資産合計			496,501
資産合計			68,289,000
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	事務局経費、春大会分他	3,853,618	
前受金	2023年度会費	1,479,000	
預り金	源泉税他	70,630	
未払法人税等		70,000	
未払消費税		506,300	
流動負債合計			5,979,548
負債合計			5,979,548
正味財産			62,309,452

貸借対照表総括表

2023年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	58,069,867	0	0	58,069,867
商品	978,097	0	0	978,097
前渡金	31,630	0	0	31,630
未収入金	3,280,424	3,432,481	2,000,000	8,712,905
流動資産合計	62,360,018	3,432,481	2,000,000	67,792,499
2. 固定資産				
(1) その他固定資産				
工具器具備品	0	1	0	1
ソフトウェア	82,500	0	0	82,500
保証金	414,000	0	0	414,000
その他固定資産合計	496,500	1	0	496,501
固定資産合計	496,500	1	0	496,501
資産合計	62,856,518	3,432,482	2,000,000	68,289,000
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	827,658	3,025,960	0	3,853,618
前受金	1,479,000	0	0	1,479,000
預り金	70,630	0	0	70,630
未払法人税等	70,000	0	0	70,000
未払消費税	506,300	0	0	506,300
元入金	△ 40,449,916	25,671,676	14,778,240	0
流動負債合計	△ 37,496,328	28,697,636	14,778,240	5,979,548
負債合計	△ 37,496,328	28,697,636	14,778,240	5,979,548
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	100,352,846	△ 25,265,154	△ 12,778,240	62,309,452
正味財産合計	100,352,846	△ 25,265,154	△ 12,778,240	62,309,452
負債及び正味財産合計	62,856,518	3,432,482	2,000,000	68,289,000

損益計算書（正味財産増減計算書）総括表

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益				
事業収益	1,034,599	8,518,603	5,700,000	15,253,202
登録料収益				
チーム登録料収益	3,708,000	0	0	3,708,000
受取会費				
協会員受取会費	38,611,500	0	0	38,611,500
役員等受取会費	610,000	0	0	610,000
加盟協会料収益				
加盟協会料収益	2,350,000	0	0	2,350,000
スポンサー料収益				
スポンサー料収益	4,130,000	1,325,000	0	5,455,000
販売収益				
販売収益	5,963,949	5,136,830	312,500	11,413,279
検定料収益				
公認球検定料収益	2,000,922	0	0	2,000,922
手数料収益				
手数料収益	1,148,919	348,307	0	1,497,226
受取補助金等				
受取助成金	200,000	6,382,137	2,000,000	8,582,137
雑収益				
雑収益	211,159	34,812	10	245,981
経常収益計	59,969,048	21,745,689	8,012,510	89,727,247
(2) 経常費用				
事業費				
謝金	322,354	276,909	30,000	629,263
旅費交通費	1,686,955	6,347,045	8,143,800	16,177,800
宿泊費	361,160	4,249,687	1,128,276	5,739,123
事業支援費	19,938,000	0	0	19,938,000
賃借リース料	120,617	858,710	417,896	1,397,223
制作費	2,105,930	2,537,401	0	4,643,331
用具費	28,072	2,558,092	1,357,859	3,944,023
通信運搬費	253,413	1,676,897	5,076	1,935,386
印刷製本費	1,848,024	884,060	0	2,732,084
事業消耗品費	2,313,742	4,409,331	93,896	6,816,969
事業雑費	223,489	809,899	433,961	1,467,349
管理費				
給与手当	9,032,304	0	0	9,032,304
通勤費	374,480	0	0	374,480
法定福利費	1,466,975	0	0	1,466,975
福利厚生費	31,500	0	0	31,500
賃借料	3,753,872	0	0	3,753,872
リース料	250,800	0	0	250,800
旅費交通費	933,723	0	0	933,723
通信費	753,716	0	0	753,716
運賃	1,052,970	0	0	1,052,970
消耗品費	283,651	0	0	283,651
顧問料	720,000	0	0	720,000
業務委託費	454,300	0	0	454,300
会議費	65,133	0	0	65,133
接待交際費	39,724	0	0	39,724
水道光熱費	376,100	0	0	376,100
諸会費	656,510	0	0	656,510
租税公課	1,021,200	0	0	1,021,200
支払助成金	280,000	0	0	280,000
減価償却費	90,000	0	0	90,000
雑費	537,173	0	0	537,173
経常費用計	51,375,887	24,608,031	11,610,764	87,594,682
当期経常増減額	8,593,161	△ 2,862,342	△ 3,598,254	2,132,565
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	8,593,161	△ 2,862,342	△ 3,598,254	2,132,565
税引前当期一般正味財産増減額	8,593,161	△ 2,862,342	△ 3,598,254	2,132,565
法人税、住民税及び事業税	70,000	0	0	70,000
当期一般正味財産増減額	8,523,161	△ 2,862,342	△ 3,598,254	2,062,565
一般正味財産期首残高	91,829,685	△ 22,402,812	△ 9,179,986	60,246,887
一般正味財産期末残高	100,352,846	△ 25,265,154	△ 12,778,240	62,309,452
II 正味財産期末残高	100,352,846	△ 25,265,154	△ 12,778,240	62,309,452

監査報告書

一般財団法人日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2023年 6 月 10 日
一般財団法人日本ドッジボール協会

監事 畑 敬 

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2022年度（自2022年4月1日至2023年3月31日）の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2023年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協定会款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上

監査報告書

一般財団法人日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2023年 6月 7日
一般財団法人日本ドッジボール協会

監事 山田 上 

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2022年度（自2022年4月1日至2023年3月31日）の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2023年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協定会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上